

事業名	近畿自動車道 名古屋神戸線 よっかいち こもの 四日市JCT～菰野		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路㈱
起終点	自) 三重県四日市市伊坂町 よっかいち いさか 至) 三重県三重郡菰野町音羽 みえ こもの おとわ		延長		14 km	
事業概要	新名神高速道路は新東名高速道路と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。					
H10年度事業化	H3年度都市計画決定(四日市JCT～四日市北JCT) H6年度都市計画決定(四日市北JCT～菰野)		H-年度用地着手		H-年度工事着手	
全体事業費	1,461億円		事業進捗率		2% 供用済延長 0 km	
計画交通量	40,000台/日 ~ 51,700台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.1 (残事業) 4.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,204/1,241億円 事業費：1,071/1,108億円 維持管理費：133/133億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 5,117/5,117億円 走行時間短縮便益：4,566/4,566億円 走行費用減少便益：438/438億円 交通事故減少便益：112/112億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C=4.7 (交通量 +10%)		B/C=3.8 (交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C=3.9 (事業費 +10%)		B/C=4.7 (事業費 -10%)			
事業期間変動	: B/C=4.4 (事業期間 -1年)		B/C=4.1 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連結するルートを構成する緊急輸送道路 名神高速道路 が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する 並行する高速ネットワーク 東名阪自動車道 の代替路線として機能する 他13項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	新名神高速道路は、名神高速道路や東名阪自動車道の混雑緩和だけでなく、将来的には現東名・名神高速道路、東海環状自動車道、中央自動車道、東海北陸自動車道等と有機的に連携して、国土の枢要な高速道路網を形成します。また、東名・名神高速道路の冬季規制や事故発生時には、その交通機能を代替する道路であることから三重県知事より整備促進の要望(平成20年11月19日)を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成20年2月に亀山JCT～草津田上間が開通し、新たなネットワークを形成。これに伴い、東名阪の交通量が増加し、渋滞が激しくなる。高速バスの需要が高まる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在、設計協議および幅杭設置中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後、設計協議・用地取得の進捗を図り工事着手していく。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。